



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2021年10月10日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

#気候も危機 大学生が温暖化対策を訴える理由

10日(日)＝1面、3面

迫る



スウェーデンの環境活動家、グレタ・トゥーンベリさん(18)は15歳の時、ひとりぼっちの運動を始めました。毎週金曜日、温暖化の対策が徹底されないことに抗議するため、学校を休んで国会前で座り込みを続ける

ストライキをしたのです。この活動は「フライデー・フォー・フューチャー(未来のための金曜日)」と呼ばれるようになりました。

グレタさんの訴えに日本の若者も立ち上がりました。その一人が、中村

涼夏(すずか)さん(20)＝写真＝です。環境問題に興味を持ったのは、海の変わり果てた姿でした。時には悩んだりすることもある中村さんの行動に迫ります。

特集 ワイド

映画「夢のアンデス」が語るもの

11日(月)＝夕刊特集ワイド



東京・神保町の岩波ホールで公開中のドキュメンタリー映画「夢のアンデス」は、1970年代に世界で初めて新自由主義を試みた国、南米チリが舞台です。チリでは新自由主義に反発する市民の抗議デモが盛んに行われています。

岸田文雄首相は新自由主義からの転換と「新しい資本主義の実現」を掲げていますが、果たしてチリが世界で最初にこの主義を捨てる国になるのかどうか、パトリシオ・グスマン監督(80)＝写真＝に聞きました。

プロ野球ドラフト会議

12日(火)＝運動面など



プロ野球の新人選手選択(ドラフト)会議が11日、東京都内のホテルで開かれます。今春の第93回選抜高校野球大会(毎日新聞社など主催)で活躍した市和歌山高の小園健太投手＝写真＝や、筑波大の佐藤隼輔投手、ノ

スアジア大明桜高(秋田)の風間球打(きゆうた)投手らの上位指名が有力視されます。運命の瞬間を詳報します。



論点

総選挙に足を運ぶ意味を考える

衆議院は14日に解散して、事実上の選挙戦に入ります。世界に目を向けると、米国でトランプ前大統領が落選したように、先進国では過激な主張のポピュリズムは退潮気味です。また、多数の政党が議席を取る多極共存型民主主義が一般的になりつつあります。

一方、日本では政治に関心がないとされる若い世代が投票に行きたくないと答えている調査もあり、選挙権行使の意欲が低下している。投票所足を運ぶことの意味を考

13日(水)オピニオン面

新毎日



東京五輪の卓球混
合ダブルスの伊藤
美誠、水谷隼、伊藤
岡縣、田中、小島、
れ故郷で、は、コ、
で五輪が、正、
複雑な選択が、
元々の魅力が、
熱い力と、
球技の再確認、
方も多岐に、
毎日の新聞は、
グのメデイア、
ナリ。リーグ、
報や次の、
けた選手、
設面で、
の、
を！(小野田香織)



※都合によっては掲載日や内容を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。